

2006年度（平成18年度）第3回常務理事会記録

日 時：2006年（平成18年）7月1日（土）14:00～16:00

場 所：東京大学医学部教育研究棟2F第3セミナー室

出席者：廣川信隆（理事長）、河田光博、澤田 元、柴田洋三郎、高田邦昭（以上、常務理事）、依藤 宏（常任幹事）、天野恵子、古川智絵（以上、口腔保健協会）

I. 会議記録の確認

2006年（平成18年）度第2回常務理事会記録、同摘録（案）

2006年（平成18年）度第1回理事会記録、同摘録、同議事録（案）

2006年（平成18年）度総会・学術評議員会記録、同摘録、同議事録（案）

II. 報告事項

1. 庶務報告（高田庶務担当理事）

（1） 会員異動報告（正会員 2,158名平成18年6月19日現在）

平成18年3月分（入会者 正会員 14名、学生 14名、退会者 正会員 17名）

平成18年4月分（入会者 正会員 6名、学生 4名、退会者 正会員 6名）

平成18年5月分（入会者 正会員 2名、学生 1名、退会者 正会員 1名）

逝去会員 臼井猛史氏（大分大学／永年会員、平成17年8月26日逝去、享年71歳）、窪田金次郎氏（東京医科歯科大学名誉教授／名誉会員、平成18年3月31日逝去、享年83歳）

（2） 総会・全国学術集会開催校の募集

2010年（平成22年）総会・全国学術集会開催校募集が9月末日を締め切りとして行われることになった。

（3） 日本医学会の評議員・連絡委員の推薦

標記評議員として河田常務理事、連絡委員として澤田常務理事、用語委員として坂井建雄順天堂大学教授、用語代委員として金子武嗣京都大学教授を推薦したことが報告された。なお任期は平成18年4月1日から平成20年3月31日までである。

（4） 平成18年度支部学術集会開催日程

各支部の学術集会開催日程について報告があった。なおこの件については既にホームページに掲載済みである。

（5） 2007年度（平成19年度）新役員選出選挙

標記選挙の日程概要について報告が行われた。

（6） 学会宛文書

① 通知・依頼 日本医師会より「平成18年度日本医師会賞」ならびに「日本医

師会医学研究助成費」候補の推薦について 他 21 箇所より 32 件の通知・依頼が届いている。

② 書籍、定期通信他 13 箇所より 13 件の書籍、定期通信、CD 等が届いている。

(7) 総会時の各種委員会の報告

標記の報告が行われた。

(8) 新鮮遺体の解剖について

新鮮遺体の解剖に関しては先の常務理事会記録（平成 17 年度第 4 回）にも記したとおり、常務理事会としては「医学部生を対象とした教育の解剖とは別のものであると認識している」。すなわち、解剖学教室が、従来から使命あるいは任務としておこなってきた人体解剖はホルマリン等により固定された遺体を使用した医学教育のための解剖であり、臨床の手術手技トレーニング等を目的とした新鮮遺体の解剖とは別種のものである。このための遺体収集、法律関係の整備などは、改めて慎重に検討される必要があるであろう。

(9) 少量の核燃料物質の安全管理用マニュアル（案）について

電子顕微鏡の試料作製に使用するウラン等が関係する標記マニュアル（案）について報告があった。なお、この案は解剖学会ホームページに掲載予定である。

（この項は澤田常務理事よりの報告）

(10) 日本学術会議分野別委員会

標記委員会の分科会として設立された形態科学・細胞生物学医科学分科会の委員が 5 月の幹事会で承認された旨、報告があった。なお、解剖学会員の連携会員は柴田洋三郎常務理事、内山安男理事である。（この項は廣川理事長よりの報告）

(11) 学会事務委託契約更新手続き完了報告

総会で予算案が可決されたのに伴い、標記の契約手続きが完了した旨、報告があった。

(12) その他

①週刊誌に献体者を冒流するような医学生の発言が掲載された件について：所属大学より当該学生に対する処分が出た旨、報告があった。②コメディカルの人体解剖実習に関連して、死体解剖保存法違反容疑で警察の捜査が進行中の旨、報告があった。

2. 編集報告（柴田編集担当理事）

(1) 解剖学雑誌及び ASI 刊行報告

両誌の 81 巻 2 号が 6 月 12 日発送され、順調に刊行されている旨の報告があった。

(2) 平成 18 年度科研費補助金審査結果

ASI について申請した標記補助金は、不採択となった旨の通知があった。

(3) ASI の電子ジャーナル化について

冊子体も一部残しながら、電子ジャーナル化を進める方向も含めて、今後のあり方を検討してゆくことが報告された。

3. 企画・渉外報告（河田企画・渉外担当理事）

(1) 平成18年度奨励賞・解剖組織技術士功労賞候補者の募集

標記候補者公募に関する報告がおこなわれた。

(2) 平成18年度一級技術士資格試験

標記試験が9月16日鶴見大学歯学部でおこなわれる予定である旨、報告があった。

(3) IFAA について

IFAA の D.B.Thomas 会長が IFAA の活性化のため、出版物をサポートする委員会を作り、種々の雑誌の目次を機関誌に掲載できるよう各方面に働きかけている旨の報告がおこなわれた。

(4) 生物科学連合報告

第17回国際生物学オリンピック（2006年7月9日～16日、開催国アルゼンチン）派遣者決定等の生物科学連合の活動に関する報告がおこなわれた。

(5) その他

① 解剖学会ホームページ英語版について

標記ホームページ英語版の充実の必要性とそれに対する方策について報告・審議がおこなわれた。

② H.W.Korf Anatomische Gesellschaft 会長よりのメール

標記 H.W.Korf 会長より、日本解剖学会との間で研究教育に関し交流をしたいとの申し入れがあった。常務理事会としてはこの交流に対して、前向きに進めて行くことが決定された。（この項は廣川理事長よりの報告）

4. 会計報告（澤田会計担当理事）

(1) 平成18年度中間決算書

標記決算書について報告がおこなわれた。なお、科研費補助金（研究成果公開促進費）が採択されなかった事による赤字は前期繰越金等で補う予定である。この補正予算は次回の理事会において提出、審議される。

III. 審議事項

1. 教授就任による学術評議員審査

3件の申請について審議、承認された。なお、今後教授就任による学術評議員については、申請日付で委嘱することになった。

2. (財) 日本篤志献体協会後援

標記協会より後援願いが届き、これに対して年間賛助金10万円を拠出することが

承認された。

3. 科学技術政策研究所の調査における回答候補者の推薦

文部科学省科学技術研究所より標記の推薦依頼が届いた。これに対しては締め切りが7月21日（金）で選挙等をおこなっている時間的余裕がないため、前回の科研費審査委員候補者選挙結果をもとに候補者リストを作成し、それに対してメールで審議をおこなうことが決定された。

4. 解剖学用語集出版に関して

解剖学用語委員会坂井建雄委員長より、出版予定の解剖学用語の委員会原案に関し、解剖学会ホームページに公開して学会員の意見を聞きたいとの希望がよせられた。この件についての審議がおこなわれ、承認された。

5. 会員名簿発行について

会員名簿は従来4年に1度出版され、本来なら2006年が発行の年であったが、学会事務センターの破綻などでその準備が遅れてしまった。さらに、個人情報保護法の制定、科研費不採択による財政事情もあり、企画から出版までには約1年かかることも考慮すると、発行については次期執行部に引き継ぐのが妥当との結論に達した。

6. 第5回 APICA 開催国

開催国としてイランが候補に挙がっており、それに対して開催能力等の点での検討および APICA の主要メンバーである韓国、中国などとの意見交換がおこなわれた。その結果2008年開催の第5回 APICA 開催国は日本としてはイランを支持することが結論された。

7. 科学者の行動規範等に関する調査

日本学術会議より標記のアンケート調査の依頼が届いた。審議の結果、高田庶務理事が、回答を作成することになった。

8. 平成18年度補正予算

科研費補助金（研究成果公開促進費）が不採択になった事による標記補正予算が提示され、今後 ASI の電子ジャーナル化により経費を節減する方向を検討してゆくこと、今年度は赤字決算となることなどが承認された。

9. 次回理事会・常務理事会日程

常務理事会は9月9日 11:00～、理事会は同日の 14:00～実施することが決定された。